

資産運用レポート：バブル相場との付き合い方

1 はじめに

私が初めて株を買ったのは1995年2月です。それから24年あまり、生き馬の目を抜くマーケットにて、何とか生き残ってきました。

しかし改めて自分の売買を改めて振り返ってみれば「もっと上手くやれたのに・・・」と思うことが多々あります。

とりわけ、次の5つを徹底できれば、損の上塗りにもがき苦しんだり、利益を取り逃して地団駄を踏むこともなっただしょう。

1. 高値を更新し続ける株価に買いたい気持ちを抑えきれなくなり、バブル相場で高値つかみをしないこと
2. 運よくバブル相場で儲かった場合、調子に乗って手を広げず、熱狂が収まるまで資金の温存に努めること
3. バブルの崩壊している局面にて、高値から少し下げただけの株を「安くなった」と勘違いして買い向かわないこと
4. バブル崩壊後に必ずと言っていいほど訪れる、金融危機や不況を伴う株安局面で、底値近くで株を買ったにもかかわらず、低迷を続ける株価に嫌気が差して、持ちこたえられずに投げてしまうこと
5. うんざりするような安値が続いた後、世の中に明るい兆しが見え始め、持株が少し上がった程度で「やれやれ」とばかりに薄利で利益確定を行わないこと

要するに、個人投資家が株式投資で資産を築くためには「いかにして、バブル相場に踊らされず、冷静に対応できるのか。少なからずの投資家が退場させられてしまう、バブル崩壊とその後株安局面をどうやって乗り切るのか」に尽きます。

奇しくも足元の状況は、マクロ経済や企業業績がかんばしくないにもかかわらず、日米の株価指数が上昇し続けるバブル相場の様相を呈しています。

そこで今回の資産運用レポートでは、私自身の経験を踏まえた、バブル相場との付き合い方を取り上げます。